

日语分级阅读

高级 适用于N2N1级别学习者

赠
音频
日汉对照



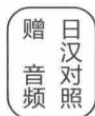
杜子春



日语分级阅读研究组 编



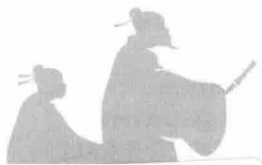
华东理工大学出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS



日语分级阅读 
适用于N2/N1级别学习者

杜子春

日语分级阅读研究组 编



 华东理工大学出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

· 上海 ·

图书在版编目(CIP)数据

日语分级阅读. 杜子春:高级:赠音频:日汉对照 / 日语分级阅读研究组编. — 上海:华东理工大学出版社, 2022.11

ISBN 978-7-5628-6995-5

I. ①日… II. ①日… III. ①日语-阅读教学-自学参考资料 IV. ①H369.4

中国版本图书馆CIP数据核字(2022)第188242号

策划编辑 / 王一佼

责任编辑 / 刘 溱

责任校对 / 金美玉

装帧设计 / 王 翔

插 画 / 施 纹

出版发行 / 华东理工大学出版社有限公司

地址:上海市梅陇路130号, 200237

电话:021-64250306

网址:www.ecustpress.cn

邮箱:zongbianban@ecustpress.cn

印 刷 / 杭州日报报业集团盛元印务有限公司

开 本 / 890mm × 1240mm 1/32

印 张 / 2

字 数 / 53千字

版 次 / 2022年11月第1版

印 次 / 2022年11月第1次

定 价 / 15.00元

版权所有 侵权必究

目 录

杜子春 ^{とししゆん}	002
杜子春	003



日语分级阅读 

适用于N2/N1级别学习者

杜子春

日语分级阅读研究组 编



华东理工大学出版社

EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

· 上海 ·

と し しゆん
杜子春あくたがわりゅうのすけ
芥川龍之介

扫一扫，听音频

あるはる ひぐれ
或春の日暮です。とう みやこらくよう にし もん した そら あお
唐の都洛陽の西の門の下に、ぼんやり空を仰いでい
ひとり わかも
る、一人の若者がありました。わかもの な と し しゆん もと かねもち むすこ
若者は名を杜子春といって、元は金持の息子でした
いま ざいさん つく ひぐら こま
が、今は財産をつかい尽して、その日暮しにも困るぐら
い、あわれな身分になっているのです。なに こらくよう てん か なら
何しろその頃洛陽といえ、天下に並ぶものがない、
はんじょう きわ みやこ おうらい
繁昌を極めた都ですから、往来にはまだしつきりな
ひと くるま とお もん あた
く、人や車が通っていました。門いっぱいに当たってい
る、あぶら ゆう ひ ひかり なか ろうじん しゃ
る、油のような夕日の光の中に、老人のかぶった紗の

生词短语

極める(きわめる): ③[他动2]达到极点; 绝,
穷尽

杜子春

那是一个春天的黄昏。

唐都洛阳西边的城门下，一位年轻人正呆呆地望着天空。

年轻人名叫杜子春。他本是富人之子，但如今已然用尽了财产，连生计都难以维持，甚是可怜。

而彼时的洛阳，繁华程度举世无双，车来人往熙熙攘攘。金灿灿的夕阳照耀着城门，余晖中，头戴纱帽的老人、佩戴金色耳环的土耳其女人、脖颈上套着彩色缰绳的白马络绎不绝，景象如画般美丽。

ぼうし 帽子や、トルコの女おんなの金かねの耳環みみわや、白馬しろうまに飾かざった色糸いろいと
 の手綱たづなが、絶たえず流ながれて行くようすは、まるで画えのよう
 な美うつくしさです。

しかし杜子春とししゅんは相変あいかわらず、門もんの壁かべに身みを凭もたせて、ぼん
 やり空そらばかり眺ながめていました。空そらには、もう細ほそい月つきが、
 うらうらと靡なびいた霞かすみの中なかに、まるで爪つめの痕あとかと思おもう程、
 かすかに白しろく浮うかんでいるのです。

「日ひは暮くれるし、腹はらは減へるし、その上うえもうどこへ行いって
 も、泊とめてくれる所ところはなさそうだし——こんな思おもいを
 して生いきているくらいなら、いっそ川かわへでも身みを投なげて、
 死しんでしまった方ほうがましかも知しれない」

杜子春とししゅんはひとりさっきから、こんな取とり止めとめもないこ
 とを思おもいめぐらしていたのです。

するとどこからやっ来て来たか、突然き彼とつぜんの前かれへ足まえを止あしめ
 た、片目かための老人ろうじんがあります。それが夕日ゆうひの光ひかりを浴あびて、
 おおおおかげもんおと、じっと杜子春とししゅんの顔かおを見みながら、「お
 まえなにかんが、前まへは何なにを考かんがえているのだ」と、横柄おうへいに声こえをかけました。

「私わたしですか。私わたしは今夜こんや寝ねる所ところもないので、どうした

然而杜子春无动于衷，依旧倚靠在城门墙壁上，呆呆地仰望着天空。空中浮起一弯细月，在随风缓缓飘动的晚霞中，好似淡淡的白色爪痕。

“太阳快落山了，肚子饿了，而且没有可留宿的地方——与其这样活下去，或许还不如跳河死了的好。”

从刚才开始，杜子春就这样独自翻来覆去地胡思乱想着。

这时，不知从何处冒出来一位独眼老人，突然驻足在他面前。老人沐浴在夕阳中，在城门上投下了巨大的影子。他盯着杜子春的脸，突然傲慢地问道：“你在想什么呢？”

“您问我吗？我今晚无处可去，正在想该怎么办呢。”

ものかと ^{かんが} 考えているのです」

ろうじん たず かた きゆう と ししゆん め
老人の尋ね方が急でしたから、杜子春はさすがに眼
を伏せて、^{おも} 思わず ^{しょうじき} 正直な ^{こたえ} 答をしました。

「そうか。それはかわいそうだな」

ろうじん しばら なにごと ^{かんが} 考えているようでしたが、やがて、
^{おうらい} 往来に ^{ゆうひ} さしている ^{ひかり} 夕日の ^{ゆび} 光を指さしながら、

「ではおれが ^{ひと} いい ^{おし} ことを一つ ^{いま} 教えて ^{ゆう} やろう。今この夕
^ひ 日の中に ^{なか} 立って、^{まえ} お前の ^{かげ} 影が ^ち 地に ^{うつ} 映ったら、^{あたま} その ^あ 頭に
^あ 当たる ^{ところ} 所を ^{よなか} 夜中に ^ほ 掘って ^み 見るが ^{くるま} いい。きっと ^{おうごん} 車に ^う いっ
^{はず} ぱいの ^{おうごん} 黄金が ^う 埋ま ^{はず} っている ^{はず} 筈だから」

「ほんとうですか」

とししゆん おどろ ふ め あ
杜子春は驚いて、伏せていた眼を挙げました。とこ
ろが ^{さら} 更に ^{ふしぎ} 不思議な ^{ろうじん} ことには、あの ^い 老人は ^い どこへ ^い 行ったか、
もう ^{かげ} あたりには ^{かたち} それらしい、影も ^み 形も ^あ 見当り ^あ しません。
その ^{かわ} 代り ^{そら} 空の ^{つき} 月の ^{いろ} 色は ^{まえ} 前より ^{しろ} も ^{やす} なお ^{やす} 白く ^{やす} なって、休 ^{やす} み ^{やす} な
^{おうらい} い ^{ひと} 往来 ^{ひと} の ^{うへ} 人 ^{うへ} 通り ^{うへ} の ^{うへ} 上 ^{うへ} には、^き もう ^{はや} 気 ^{はや} の ^{はや} 早い ^に こう ^に も ^に り ^に が ^に 二、

生词短语

見当たる (みあたる): ①③ [自动1] 看到, 找到

老人问得突然，杜子春不由得低垂双眼，老老实实地回答道。

“这样啊。那还真是可怜。”

老人像是在思索些什么，随后指了指照耀着大路的夕阳。

“那我告诉你个好法子吧。你现在来站到这夕阳中，注意看地上的影子，等半夜时分来挖开影子的头部，肯定能挖出一车黄金。”

“真的吗？”

杜子春惊讶地抬起眼，然而更不可思议的是，那位老人已经不知去哪儿了，四周全无他的踪影。空中的月牙比先前更加皎白，往来不绝的人群上空已经有两三只性急的蝙蝠在翩然飞舞。

さんびき
三匹ひらひら舞っていました。

二

とししゅん いちにち うち らくよう みやこ ただひとり おおがね
杜子春は一日の内に、洛陽の都でも唯一人という大金
もち
持になりました。あの老人の言葉通り、夕日に影を映して
み
見て、その頭に当る所を、夜中にそっと掘って見たら、
おお くるま あま おうごん ひとやまで き
大きな車にも余るくらい、黄金が一山出て来たのです。

おおがねもち とししゅん りっば うち か
大金持になった杜子春は、すぐに立派な家を買って、
げんそうこうてい ま ぜいたく くら はじ
玄宗皇帝にも負けないくらい、贅沢な暮らしをし始めまし
た。蘭陵の酒を買わせるやら、桂州の竜眼肉をとり
ひ よたびいろ かわ ぼたん にわ う
よせるやら、日に四度色の変る牡丹を庭に植えさせるや
ら、しろくじゃく なんわ はな が たま あつ
ら、白孔雀を何羽も放し飼いにするやら、玉を集める
やしき ん こうぼく くるま つく
やら、錦を縫わせるやら、香木の車を造らせるやら、

生词短语

やら：[助]表示列举

二

杜子春在一日之内便成了洛阳城内的首富。他按照那位老人所言，在夕阳投下影子，午夜时分悄悄挖开影子的头部，果然挖出了一堆黄金，装满一辆大车绰绰有余。

杜子春成了大富豪后，立刻购置了豪宅，过上了不输玄宗皇帝的奢侈生活。他叫人买来兰陵的酒，订购桂州的龙眼肉，庭院里种上一天变换四种颜色的牡丹，放养几尾白孔雀，收集玉石，缝制锦缎，造香木车，定制象牙椅……种种奢侈之事若是一一写下，那可几天几夜都写不完。

象牙の椅子を誂えるやら、その贅沢をいちいち書いては、いつになってもこの話がおしまいにならないくらいです。

するとこういう噂を聞いて、今までは路で行き合っても、挨拶さえしなかった友だちなどが、朝夕遊びにやってきました。それも一日毎に数が増して、半年ばかり経つ内には、洛陽の都に名を知られた才子や美人が多い中で、杜子春の家へ来ないものは、一人もないくらいになってしまったのです。杜子春はこの御客たちを相手に、毎日酒盛りを開きました。その酒盛りのまた盛なことは、なかなか口には尽されません。ごくかいつまんだだけをお話ししても、杜子春が金の杯に西洋から来た葡萄酒を汲んで、天竺生れの魔法使が刀を呑んで見せる芸に見とれていると、そのまわりには二十人の女たちが、十人は翡翠の蓮の花を、十人は瑪瑙の牡丹の花を、いずれも髪に飾りながら、笛や琴を

听闻杜子春奢靡行事的传言后，原本在路上遇到他都不打招呼的朋友们，开始整日登门拜访寻欢，而且这样的人与日俱增。不到半年，洛阳城内有名的才子美人，就全都去过杜子春家了。杜子春也每天设宴款待这些客人，那酒宴的盛况真是说都说不完。简单来说，杜子春用金杯来装西洋的葡萄酒，入神地观看天竺魔法师的吞刀表演。他的身边围着二十个美女，十个人头戴翡翠做的莲花，十个人头戴玛瑙做的牡丹，或吹笛或弹琴，极尽欢愉。

たの かな け しき
 楽しげに奏でていう景色なのです。

しかしいくら大金持でも、御金には際限がありますから、さすがに贅沢家の杜子春も、一年二年と経つ内には、だんだん貧乏になり出しました。そうすると人間は薄情なもので、昨日までは毎日来た友だちも、今日は門の前を^{もん まえ とお}通^とってさえ、^{あいさつひと}挨拶一つして^い行きません。ましてとうとう三年目の春、また杜子春が以前の通り、一文無しになって見ると、^{ひろ らくよう みやこ なか}広い洛陽の都の中にも、^{かれ やど}彼に宿を貸^かそうという家は、^{いえ いっけん}一軒もなくなっていました。いや、^{やど か}宿を貸^かすどころか、^{いま わん いっぱい みず}今では^い腕に一杯の水も、めぐんでくれるものはないのです。

そこで彼は或日の夕方、もう一度あの洛陽の西の門の下へ行って、^{そら なが}ぼんやり空を眺めながら、^{と ほう く}途方に暮れて

生词短语

途方に暮れる(とほうにくれる): 日暮途穷, 不知所措

重点语法

② ~どころか: “哪里……” “别说……”, 表示从根本上进行否定

然而再怎么富有，钱财也有用尽之时。杜子春过着这样奢侈的生活，不出两年，就渐渐拮据起来。而人本薄情，昨天为止还每天登门拜访的友人们，今天就算路过杜子春家门前，也连招呼都不打一个。到了第三年春天，杜子春又回到了从前身无分文的状态，偌大的洛阳城中，竟无一家肯让他留宿。不，别说是留宿了，连一碗水都不肯给他喝。

于是，某天黄昏，他又来到洛阳西边城门下，一筹莫展地伫立在那里，呆呆地望着天空，那位独眼老人又像上次